

## 田中哲朗コンサートIN大分報告

大分県『国鉄闘争に連帯する会』 矢田昌三



田中哲朗さんのコンサートが、5月31日の豊後高田市から、同日の中津市、6月1日の湯布院町、2日の大野町と開催されました。

豊後高田市の隣保館には35人、中津市の中津下毛教育会館には45人の皆さんが集まってくれました。また、湯布院及び大野町会場でも、浦田さんと赤峰さんの報告のように感動的な出会いが実現しました。豊後高田市のコンサート終了後に持たれた反省会の席で、主催者の安東さん

は、「人と人のつながりを大切にしていけば、正しいことは広がっていく」という言葉で、この一連のコンサートの意義付けをしてくれました。

田中さんは、コンサートを始めるに当たり、きちんと原稿を作成したうえで、一つのステージに臨みます。話と歌と音（ギター）が三位一体となって、参加者を包みます。もしかしたらそれは、一対一の真剣勝負の場かもしれません。

田中さんは、これからのキーワードは、一つには企業ファシズムであり、一つには日の丸・君が代の強制であるとし、これらが「踏み絵」として日常的に使われていると指摘します。また、「愛国心」ということがこれからの日本の方向を決めてしまうかもしれないと。

3月に反イラク戦争のための「ピ・スキャンダルin大分」を一人になってもと始めた島田雅美さんはその思いを、「2・11の田中さんのコンサートで、闘いは一人からでも始められる」との声に感銘を受けたと、話してくれました。そもそも、今回の取り組みは、2月11日に「建国記念日に反対する集会」（主催・天皇制を考える市民ネット）で開催された田中さんのコンサートがきっかけでした。

田中哲郎さんのトークとライブは、今回もまた、多くのものを残してくれました。



「一人からでも始める」闘いのつながりを広く広げていくために、こうしたかたちをもう一度作り上げていくことの大切さを感じました。



#### （田中哲朗湯布院ライブ報告）

- 浦田龍次さんより -

6月1日、湯布院では役場前のコミュニティセンターで、田中哲朗さんのトーク&ライブを開きました。大分での4連続ライブの3番目で、田中さんは湯布院につくなり「まず休ませて」とさすがに疲れ気味の様子でしたが、一眠りされたら、かなり元気を回復したようで、温泉に入って食

事をしたあと、会場へ。会場は、狭い部屋ではありましたがほぼ一杯。ライブに先立って、田中さんの活動を撮った20分間のドキュメンタリービデオ「門前からのメッセージ - 田中哲朗の20年」を上映したので、実際に田中さんがどのような場所で門前ライブをしてきたのかが、その情景とともにとてもよく参加者たちに伝わったようでした。ライブ終了後の交流会には、なんと40名の参加者の3分の2が参加。深夜まで話が盛り上がりました。

後日、このライブに参加していた人たちに会うと、その誰もが「田中さんのライブよかったですね」というあいさつから始まるほどに、参加したそれぞれの方が感銘を受けたよ

うでした。参加した人の話を聞いたと言う人からCDを貸してとの電話もありました。今まで、いろんな講演会、ライブを取り組んできましたが、今回ほど、参加者たちから反応があったのは初めて。田中さんのライブ、とにかく、もっと各地でたくさんの人に聞いてもらえるといいなあと思いました。(追伸：田中さんは、湯布院の経験をカルチャ・ショックと表現しています。)

### (三重町ライブ報告)

- 赤峰正俊さんより -



### 【たまには組合もいい企画するじゃん三重町会場】

三重町会場では、大野地区平和運動センター(森迫信夫議長)を中心に労働組合主体で開催されました。230名の参加者は「またいつもの動員か・・・」との思いもあったようですが、閉会時の顔つきは、まったくちがいで大満足の取り組みになったようです。

二部構成の第1部では「これからの労働運動を考える」と題して、高橋義則氏(前国労本部委員長)・橘幸英氏(前東京都職労書記長)・滝野忠氏(社会通信社編集長)をパネリストに迎え、森迫議長のコーディネートで開催されました。

三氏とも「国鉄闘争」の本質と現状を正確捉え、現在の労働者を取り巻く情勢不安と組織的混迷をわかりやすく解説し、「労働組合や労働者」が、今後、進むべき道についての貴重な提言を与えてくれました。

当日、翌日平和運動センターには、複数の組合・個人から「改めて話しを聞きたい」と直接要請する声や電話が届きました。

第2部の「田中哲朗コンサート」も第1部とピッタリ一致しました。会場のあちこちで顔を覆う人の姿が見られました。前に開催された3つの会場に比べ参加者の「予備知識」

が薄いがために、与えたインパクトの強さが際だったコンサートになりました。その証拠に、用意された田中さんのCD・「人らしく」タオルは、あっという間に完売しました。

三重町会場にも、遠方から様々な皆さんが駆け付けてくれました。今回のコンサートのきっかけを作ってくれた天皇制を考える市民ネットの島田さんや、北九州から毎日新聞記者の林田さん、そして、「死刑囚」と養子縁組されて「死刑制度」反対を訴える益永さん他、津久見市・国東郡・宇佐市・大分市などからも参加がありました。

最後に、今回の「田中哲朗コンサート＆国鉄闘争」(湯布院はコンサートだけ)の集いは、それぞれの地域実行委員会の皆さんと「天皇制を考える市民ネット」や「週間金曜日大分読者会」及び大分県『国鉄闘争に連帯する会』等の皆さんが、有機的につながることによって実現しました。田中さんには、三日で4会場というハードスケジュールでしたが大成功の取り組みでした。国鉄闘争も改めて大衆的に広がっていく可能性が確認されました。各会場での最高裁署名もたくさん集まり、10,000筆に王手がかかりました。

また、参加者の皆さんには次のようなご協力をいただきました。本当にありがとうございました。

・CD 100枚完売　・タオル70枚　・署名452筆　・カンパ71,246円

(ちょっとした話)

昨年8月の「人らしく生きよう」の豊後高田市の上映会は、台風の直撃を受けたなかでの開催となりました。吹き荒れる風とたたきつける雨のなかで、必至に音と映像を追いかけたことを思い出しました。何と今回も38年ぶりの5月での台風上陸という状況で、田中さんには一日早い便で東京より来ていただきました。

その夜は、安東さんの好意で安東さんの自宅に、田中さんは赤峰さんとともに宿泊させていただきました。ただ、田中さんにとっての本当の困難はその夜に待っていました。

この夜の「交流会」は、集まってくれた「N」夫婦をはじめ地元の皆さんとの語らいで、楽しかったと田中さんも次の日話していました。しかし、その深夜、飲まされすぎた(「N」夫婦と熊のような闘争団員が薦めたそうです)田中さんは、深夜トイレに行こうとして倒れてしまったそうです。

次の日、会場で出会った「N」夫婦はことの次第を知って非常に驚いていましたので、「大分の常識」が少しだけ間違いを起こしたということかもしれません。

それにしても、14時から90分のトーク＆ライブをして、場所を変えて(40分の移動)18時30分からまたトーク＆ライブをさせるという計画の立案者が、田中さんにとって、最大の困難者だったのかもしれません。